

露人や諸外國人に迎へられて入城した時の愉快さは終生忘れられぬ事と思ふ云々。

△伍長井砂正雄君。十一月中旬夜陰に乗じ、三軒房の敵前千米突の

内郷村報の 六大使命

- 一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。
- 二、村内外各機關の活動状況を報導し併せて其協調を計り、總親和總努力の實現を期す。
- 三、本村共済事業の徹底を期す。
- 四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。
- 五、本村及本村出身者及本村關係者との聯絡を計り、且其發展向上を期す。
- 六、尙餘力を以て、國民善導に當る。

内郷村報

發行所 内郷村報社
 社址 内郷村
 電話 八四〇
 印刷所 福島印刷所
 印刷費 一円二角
 代印費 一円二角
 送料 別定
 行發日一回一月毎

我國空前の試み

私設視學

大内民惠

一家に私設視學を置き本縣學務部に出頭して其旨を通告した事は、既に本紙前號に於て報導した通りである。此機會に於て私設視學とは、どんな事をするものであるかを、聊か説明して置かうと思ふ。支那の秦の時代に、馬の良否を見分くる伯樂といふ者があつて、馬の産地である、冀北の野を一度通過すれば、良馬は全部引取られて、駄馬ばかりが残されたといふ故事から、馬喰や獸醫を伯樂と稱する様になつたといふが、刻下我教育界を展望するに、斯界には其良樂がないのではないかと、伯樂と思はれる。よしあつても選別したる教育家を、其良否によつて、思ふが儘に取捨選擇する事が出来な

い状態になつて居るのである。申す迄もなく我國教育の伯樂總本部は文部省であり、地方教育の伯樂總元緒は、各府縣の學務部である。近頃文部省がインテキ學校征伐を開始し、鳩山文相以下各局長等が、鬼の首でもとつた様な氣で居る様だが、今日迄多年そうした學校の存續を許しておいたといふ事は、いふ迄もなく文部省の責任といはねばならぬ。之は唯問題になつた私立學校に限つた事ではなく、他の一般官公立の學校に於ても、幾多非教育的事實や、恐るべき弊害の伏在して居る事はいふ迄もないのである。要するに伯樂が伯樂たるの眞命を全うする事が出来な

い結果なのである。次に各府縣下の教育は、どう

△上等兵大竹義雄君。幾度かの戦に、苦しかつた事、樂しかつた事は數限りなくあるが、方正方面の戦團に、其行動を共にした友軍吉林軍の退却によつて、我桂大隊が

男を善導すべく發起者等が輕妙な話題を進めて行く所、空腹に攻め立てられる頃布哇渡來の巴里や新瀉産の松露などが膳に上る。急に群衆心理が亂高下を呈して來

井砂勞務君が一子正雄君の凱旋の報あるや若松へ飛んで行つて何かさうしてやる積りであつたそ

變なり杉の林や山笑、皆川 二樓
 蛇去りてあまに薔の花ばかり、岡本 味男
 一枚の板渡しあり春の水、高木 撫山

か、それ、縣視學、視學官、課長、部長と幾人かの大小伯樂があつて、教育行政と人事とを司り、毎年四月を以て管下校長教員の取捨選擇大移動が行はれるのである。本縣に於ても本年千數百人の教育家が其節にかけられたのである。我々第三者が其跡を観察する時に、果して所謂良馬は抜かれ、駄馬は捨てられてあるか、どうか願う。

疑問 問たらざるを得ない。記者は之等に關して、少しく管見を述べて見るが縣下數千玉石混淆の教育家を選別任免するに、縣廳内に立て籠れる前記幾人かの伯樂が之に當り、其仕事の根據標準は、市町村長各校長等の上申陳情と、教員個人の自薦他薦陰陽の運動等に據るもので、偶々伯樂が地方に出張する事もあるが、此時ばかりと歓迎接待されて、馬群

鑑 機會などは、到底與へられるものではない。市町村校長等の上申陳情の如きも、其多くは情實關係感情問題等に支配される事が多く、一意専心身の修養に努め、兀々と其職務に精勵し、其分を立派に果して居つても、上手に立ち廻つても認められる事なく、税のあがり様がないのである。こゝに自薦他薦陰陽の運動が行はるゝのである。然らざる者は自暴自棄よからぬ思想にかぶれて、問題を引き起す者も決して少くないのである。而して其

自 薦運動とは、自ら市町村長とか、縣伯樂とかに働きかけるのである。本縣本郡に轉任して來た校長が、幾年か其儘になつて居る物品代の催促をうけて、實は轉任運動の爲に出福して、某視學を飯坂で御馳走

した爲に數十金を要し、今の處何とも仕様ないので、轉任後月賦で拂ふから待つてくれ云々と、申譯をしたといふ事を、平町のさる店主から聞かされたが、其事の眞否は保證の限りではないが、以上の申譯は事實である事を立派に證明する事が出来ると思ふ次に、薦とは、其多くは縣會議員級の政黨屋に頼み込むのである。頼まれた連中は、相當の贈物や、運動費(福島市附近は訓導三十圓校長五十圓が相場、石城地方は出福旅費が二十圓でそれに若干の雜費を計上する)をせしめ、選舉の時

御挨拶

大内弘喜

私は此度ゆくりなくも大内家の人となり、こゝに掲げてある趣旨に基き、私設視學といふ大それた仕事にあたる事になりました。もとより若輩不徳の者果して好成績を挙げ得るや否やは、大なる疑問であります。一旦引き上げた以上は、其至誠と最善とを致す覺悟であります。御指導御鞭撻の勞を垂れられん事を、一般各位に對して、心から御願申上げます。

拜具

(以下二面へつづく)

(一面よりつづく)
である。そうした運動が
に陽に行はれるのであ
る。以上概説した通り
であるが故に、相當の地位
や、校長の榮位をもち得る
には、少數を除く大部分は
かうした教育家にもあるま
じき行動をとつて居るので
ある。されば今日世間から
校長と仰がれて時めいて居
る者の中には、概して碌な
者は少なく、所謂

馱馬にも等しき、非人格
者が多いと思ふ。之に
反して眞の教育家人格者所
謂良馬なる者は、多くは冷
遇されて居り、四十臺で老
朽扱にされて居る者が少く
ないのである。近く實施さ
れる文部省優遇案の精神に
は大賛成ではあるが、馱馬
の奏任待遇には大反對であ
る。以上の如き現象は、教
育界の爲に大に憂慮すべき
事であるが、現在の制度で
は如何ともする事が出来な
いのである。こゝに鑑みる
處あつて、我一家に私設
視學を置いたのである。

云ふまでもなく我一家
は、政黨政派を超越し、威
武にも屈せず、富貴にも淫
せず、貧賤にも移らざる事
を一家の家憲として居る者
である。かうした立場から

現代教育界の眞の伯樂とな
つて、其弊風改革を計りた
いと思ふのである。されど
微力なる我一家の私設視學
には、勿論命令權なく執行
權なく、其言動たるや蚊の
泣聲か、蠅の羽ばたきにも
過ぎない事は云ふ迄もない
が、されどこゝに鬼神も感
應するといふ唯一の至

誠の武器として、事に當
らんと欲する者である。而
して其得たる材料に對する
批判と希望とは、之を本紙
に發表するか、或は村縣當
局に内申するかの二途に出
づるのである。それを採擇
するや否やは、もとより我
々の關知する處ではないの
である。又常に政黨屋等に
向つても警告や注意を怠ら
ない覺悟をも有して居るの
である。かくて道は近きに
あり、先づ天下の大村たる
我居村内郷村の、忠實なる
伯樂となり視學となり公僕
となつて、村當局並に教育
家各位と

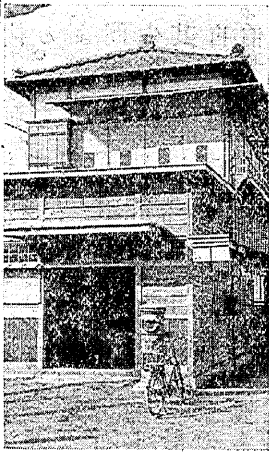
睦協調して、其至誠を
親致し、漸次郡、縣、國に
及ばんと欲するものである
△有村賢村君へ。御投書正に拜見
しました。教育家にあるまじき行
動と思つたので調査したが事實無
根でした。尙其を證する材料があ
らば知らして下。(視學)

凱旋兵 歡迎祝賀會

孝子の入營

本村出身凱旋兵歡迎祝賀
會は、内郷村役場、内郷村
軍人分會、内郷青年團等各
團體主催にて、五月十五日
午後一時より綴劇場に於て
開催せられ、柴田分會長開
會の辭、國歌合唱、野木村
長歡迎の辭、沼田濱之助一
般代表、山下喜代治氏區長
代表、緑川佳一氏等の祝辭
川上伍長凱旋兵代表答辭、
萬歳三唱、宴會余興、野木
青年團長の閉會の辭等の順
序で、全村名譽職一般有志
等二百五十名参加頗る盛會
であつた。而して凱旋兵士
に對しては紀念銀盃一個つ
ゝを贈呈したる由、其氏名
は左の通りで、二三不參者
もあつた由。(順序不同)

上層の後山渡邊正夫君は
六月一日を以て朝鮮師團に
入營する事になつたが、同
君は妙な因縁で二人の母を
持ち、以前より生きぬ仲の
母と同棲してよく之に仕へ
世間の嘆稱する處であつた
が、父の死後其母の病没す
迄知らざるなき孝養を盡し
たるは勿論、原
町在住の生母に
對しても、孝養
を怠らなかつた
由で、勞務員を
はしめ一般の賞
讃する處となつ
た。



局便郵郷内の轉移築新

局舎新築と 豊國火災

長谷川憲次郎氏は、明治
三十七年警炭入社以來三十
年精勤を披んじ、傍ら内郷
郵便局長を兼ねて、成績の
見るべきものがあつたが、
昨年退社すると同時に専任
局長となり、局舎を新築し
て一家之に移住し、又新に
豊國火災保險代理店を引き
受け、斯業に携はる事に

久留島武彦 先生講演

郷村教員會主催で、四月二
十一日家政女學校に於て開
催、婦人の目といふ題で、
有益なる講話があつた。
本紙贊助金寄贈芳名
金壹圓貳錢 在郷軍人
金五拾錢 高坂 羽田七五郎
金貳圓五拾錢 警炭青年町田支部
金貳圓 高坂 某
金五圓 平町 某
氏

矢野 恒太序 大内民惠著 服部宇之吉

教育制度改革概論

(四六版二二頁 定價五十錢 郵稅六錢)

磐炭選手の活躍

千 葉 幸 夫 記

出版披露

川平郵便局長草野三千雄
氏が、年來研究の結果創始
したる全身強健術を刊行す

健康表彰

於て展覽會を開催し、數千
人の觀覽者があつた由。

遍照講

同講内郷支部發會式は、
五月一日聖光院に於て舉行
せられた。其眞字は、本

行き詰れる現代の教育制度を解體し
て、學理と實際と、歴史と實驗とを
ら新に大内案九主義を提唱す。天下
知名の士の賛同校學に違あらず。さ
れど未だ一人の抗議者も現はれず。

我國教育學界の權威
京大教授小西重直博士
書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地
ノ御試練ニ基ク眞學堂國ノ大精神ヲ拜
味仕テ不思議ニ打テ申候云々。

發行所 日本評論社
東京九ノ内昭和ビル
取次所 内郷村報社

石城版

號二第

本紙の六大使命に準據し郡内の社会事業並教化事業に關する記事論説を採録す

石城郡共濟委員會に望む

福島縣知事 村井八郎

之は三月十三日平第三小學校に開催せられたる石城郡各町村共濟委員會事務打合せ會に於て松下社會課長が代つて述べられたる知事の挨拶である。

本 日茲に共濟委員會事務打合せ會を開催するに當り斯く多數の御來會を得ました事は、私の最欣幸とする處であります。

共 濟委員會制度は隣保相扶の情誼に基き、個人的接觸により、關係方面の社会的缺陷者及其家族の生活状態を精査し、之が保護指導の途を講じ、其改善向上を圖るを本旨とするものであります。各種社會施設中極めて重要な使命を有します事は、今更贅言を要しない處であります。本制度は從來任意的に發達して來たのであります。同法に法的基礎を有つに至つ

たのであります。本縣に於きましては、同法の運用に遺憾なからしむるため、從來の委員制度に、一大刷新を加ふると共に、委員設置區域を從來の三市四十七ヶ町村より、三市百十六ヶ町村に、委員定数を從來の八十五名より三百六十六名に夫々増加し、本制度の充實整備を計つたのであります。而して右委員に就きましては、第一次計劃を致しまして、從來共濟委員會の設置されて居りました、三市四十七ヶ町村に、二百九十九名の委員を置くことにし、最近既に其選任を完了した次第であります。残りの六十七ヶ村に對する百四十七名も、目下其人選中で近々其の選任を見る運びになつて居ります。顧みるに現下の状態は、

社 會經濟事情の推移に伴ひ、民衆生活は漸く安定を缺き、共濟委員會の活動に俟つべき事務は益々繁く之が救濟は實に時代の一大要務と言はなければならぬのであります。殊に最近日支事變の爲に、出征致しました家族の保護慰安に就きました。此際特に諸氏の努力に俟つべき点が尠くないのであります。

定を缺き、共濟委員會の活動に俟つべき事務は益々繁く之が救濟は實に時代の一大要務と言はなければならぬのであります。殊に最近日支事變の爲に、出征致しました家族の保護慰安に就きました。此際特に諸氏の努力に俟つべき点が尠くないのであります。

郡内共濟委員會事務打合せ會

同會は三月十三日午前十一時より平町第三小學校に開催せられ、縣よりは知事代理松下社會課長、照沼主事、小針副席、郡内より町長若しくは其郡代理が出席し、先づ知事代理として松下課長の挨拶、引きつづき、軍事救護、救護法、方面制度、方面委員の意味被救護者、其種類及取扱法等に就きて説明希望する處あり。午後は照沼主事補の救護事務取扱方、救貧事業の性質等に就きて、内外の實例を擧げて有益なる講話があり、午後五時より九時

モホールに於て、晚餐座談會を開き、談笑の内に意義ある夕をおくつて八時頃解散した。

郡内町村長會

四月十一日平町議事堂に開催せられたる、郡内町村長會に、記者は野木村長の紹介によつて出席し、我内郷村報石城版の使命、社會事業教化事業に關する希望等を開陳して其諒解を得た

移民講話

引きつづく不況に、南米ブラジル移民希望續出したるを以て、縣社會課に於て

は、特に新歸朝拓務技手大村信夫氏を招聘し、小針副と共に内郷村金坂グラウンド及高坂校庭に於て、十五十六の兩夜に涉つて、活動映畫と併せて移民講話を開講した。聽衆毎夜數千を算し、頗る盛會であつた。記者は三十年來の持論が、今日に到つて漸く曙光を見たるを喜ぶ一人なるが故に、海外協會理事として、所感の一端を述べたつた。

炭礦村視察

内郷村長野木龜之助氏は村會議員南波正、小野昇、沼田濱之助、山崎喜一、生田常松、佐藤三平の諸氏と共に、五月二日出發福岡縣穂波村外三ヶ村の炭礦地方を視察して八日歸村した。内郷村將來の村治施設上等に裨益する處多大であつた由である。

昭和館講演會

磐炭主催白石玄海師講演會例會は、五月十五日午後一時より昭和館に開催せられたが、折よく來合せたる大村拓務技手をも招聘して南米事情の講演を乞ひ、満場滿員の聽衆に深き感動を與へ會後勞務課員を中心とした座談會を催したる由。

三都視察感想

福島縣共済委員 猪狩庄平

余は先般、福島市藤巻榮作、若松市五十嵐忠藏、白河町寺西大龍の三氏と共に、縣より東京名古屋大阪三市の社會事業視察を仰せ...

なる奉仕的精神には、感激せざるを得なかつたのである。之を言葉をかへていへば、其人格其信仰、其堅き...

此点に我々は心に鑑みて、それらのお役は一切返上して、名利を離れて、一意専心修養に努め、堅き...

福島縣海外協會

同社會事業協會

- 海外移住に關する調査研究 究幹旋を爲し、併せて在外者相互間並其の縣内との連絡を圖り、進んで海外の發展を指導するを以て、其目的とする福島縣海外協會と...

草野式全身強健術

附録 圖解並實感錄

定價 特價金二十錢

東京南胃腸病院 桑野佐源太先生序並校閱 創始者草野三千雄著 副院長醫學博士 達部杉田村の記

杉田版

本報の六大使命 本報の六大使命に準據し故郷安達部杉田村の記

を評せば、實質剛健なる少年であつた。而して今日に於ける同君も、依然として終始一貫實質剛健なる教育...

民話君にも公開して、行き詰れる村力打開の爲に、貢獻していただきたいと思つて居る。因に同君...

取次所 内郷村報社 東京市外大崎町居木橋百三十番地 發行所 草野式全身強健術普及會 福島縣石城郡内郷村

杉田版

號二第

本報の六大使命に準據し故郷安達郡杉田村の記事論説を採録す

草野式全身強健術

附録 圖解並實感録

定價 特價金二十錢

東京南胃腸病院 副院長醫學博士 桑野佐源太先生序並校閱 創始者草野三千雄著
大 及天王寺第二方面委員 事務所等である。流石は三 大都市の社會事業は、驚く げ、且つ父子相承の方針を 以て、之を天職とするが如 き、我々はたゞ其神聖

安田儀作君と 安齋市藏君

大 内 民 惠

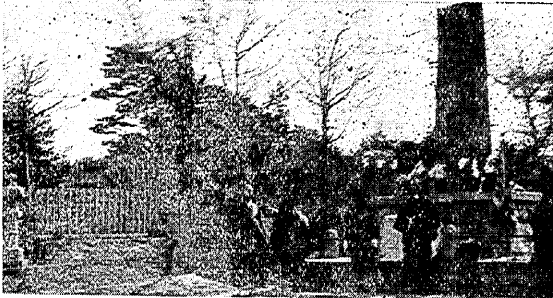
村 内に在つて活動する人 村外に出て奮闘する 人、特に其成功者に對して は、吾人は何れも常に滿腔 の敬意を表し、之を讚美し 祝福し、且つ陸續之が後繼 者の出現を祈願して居る者 である。此意味に於て、機 會ある毎に、そうした人々 を紹介して、後進者の指針 としやうと思ふのである。

安田儀作君

君 は我杉田村の生んだ教 育界の人材で、又出世 がしらである。記者よりは 二歳の少、杉田校は勿論二 本松校の同窓で、一級下の 幼な友達で心友の一人であ る。福島師範、農教養成所 を出て、縣内を振出しに實 業教育に従事し、轉々して 最後の十年は、熊本縣鹿本 農學校長として、見事なる 成績を挙げ、昨秋愛知縣大 府農商校長に轉じ今日に到

墓

参の爲歸省するから、 都合がつくならば、十 二日午後二時頃杉田でお目 にかゝりたいといふ事をい つて来たので、余は萬障を 繰り合せて、其前日歸村し て待ちうけて居つた處が、 果して其時刻に、雨を犯し て來訪してくれたのである 一別以來三十年、方關で強 握 手をかかした時には、 實に感慨無量であつた かくて丁度來合せて居つた 桑原兵次君と共に、分秒の 時間をも惜しんで、大に談 じたのであつたが、近來稀 に見る一大快事であつた。 君が少年の頃、君が近所の 年寄達は、其子や孫を教ふ るに何でも、 儀 作の眞似をしるゝといは れた位で、君は一言之



(日六月四) 景光の前碑魂招

を評せば、質實剛健なる少 年であつた。而して今日に 於ける同君も、依然として 終始一貫質實剛健なる教育 家である。かるが故に君は 今日如き墮落せる教育界 より歓迎せらるゝ筈なく、 又所謂政黨屋などからも壓 迫排斥をうけたる事は、そ れこそ幾度であつたか知れ

毅 然として動かさず、其信 する處に向つて邁進し て、教育上實際の成績を擧 げ來つた事は、實に嘆稱に 値すべきものである。其實 験談や抱負理想等は、我々 二三聴者の私すべきもので はないと思はるゝが故に、 機會を見て同君を煩はし、

桑野博士曰く、同氏の方法は毎旦朝晩起床を就床時に唯 五十分間だけ、半燈にありて唯一つの燈床を利用すれば よい。運動は頗る平易で、而かも疲たず、で樂々出來 なるが成人向きである。すべての運動が生理的原理にか なつてゐるが、殊に内臟諸機關の機能増進に力を入れて 居る所が特徴とも言ひ得る云々(序文の一節)

左の通りである
福島縣海外協會
會長 村井 八郎
評議員 海嶽 寛春
新田 啓助
大内 民惠
山田 智海
松下 秀一
鈴木 眞喜
太田 倫助
大方 倫助

東京市外大崎町居木橋百三十番地
發行所 草野式全身強健術普及會
福島縣石城郡内郷村
取次所 内郷村 報 社

安齋市藏君

君 は記者 より二 歳の長、杉 田二本松兩 校共に二級 上の先輩で よい事も悪 い事も常に 其指揮命令 に従はせら れた者であ る。嚴父は我村きつての奮 闘家成功家である直吉翁で 翁が長命した丈に、同君が 所謂部屋住み生活は數十年 の長きに涉つたのであつた 此間君は恰も赤穂義士大石 以下四十七士が、浪士とな つてから目的達成迄に營め 盡した種々雑多の苦心や經 験を、例へば 雄山科の一幕も、源吾 良 煤竹賣りの風流もとい



良諸列參祭二魂招

ふ様に、一人で之を實驗し た様な生活をして居つたの であるが、一度一家の統領 となり、假裝や泥土をはね のけて、 刀一閃、山鹿流の陣太 鼓を打ちならして、村 會議員まつた村長と、榮位 を切りとるや、村老連があ の人がと驚く暇もあらばこ そ、君が奇才は縦横に劃策 せられ、君が鐵腕はよくこ れを

功 績は永久に残さるゝ事 となつた。こゝに於て 一般は之ある哉と感心し、 尙引きつゝ其勞を煩はさ んと念願して居つたのであ つたが、昨夏病を得て今春 四月二十四日迄の一期を辛 うじて完了するに到つた事 は、同君は勿論、一村の爲 に惜みても尙餘りある次第 である。されど君はまた春 秋に富む者。静養加餐健康 を回復して 再 び村治の上に、其才と 腕とを振はれん事を、 切望して已まない次第であ

あな尊きかな

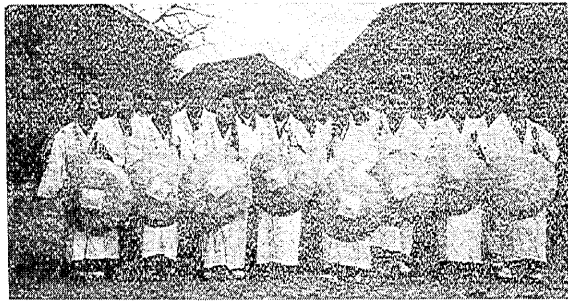
佛教婦人會の活動

杉田佛教婦人會は創立以來、七年、常に信仰に精進し、布留杉神社新築、藥師堂屋根替等何か事ある毎に、托鉢によつて淨財を集めて寄進し、其奇特を賞せられて居つたが、日支事變突發するや、寒風にさらされつゝ、近郷近在を托鉢して、清財七十五圓を得、内五圓は村内の出征軍人の家族に贈り、殘金全部を陸軍恤兵部に献金したる由。記者は歸村する折々に、會員達が揃ひの白裝束で、鈴をふりならし、御詠歌や御和讃をとなへつゝ、あるく様子を流させられる。どうか身にまよふ白衣の如き清き心を以て、堅き信仰に入り、口にとなふる佛徳を体得して一般婦人に其範を垂れられる事を心から祈つて居る

此度日支事變に従軍して滿洲に上海に奮戦して偉勳を立て、凱旋したる、本村出身の陸海兵諸君の爲に、五月十六日村主催で、小學校講堂に歓迎會を開催した

凱旋陸海兵 歡迎會

但し國分新吾君は、若松まで歸還したるも、滿洲巡査に採用せられ、歸村の余暇もなく直ちに渡滿したる由



杉田佛教婦人會の員の托鉢姿

るに、出席者多數の盛會であつた。兵士諸君の氏名は左の通りである。
上等兵 渡邊喜平治
同 岩本平治
一等機關兵 國分新吾 高根一善

溪水翁七回忌

記者亡父溪水翁の七回忌追悼會は、四月五日自宅に於て舉行したるに、平島松尾武藤久松の御禮を以しめ

親戚故舊婦人會員等多數の參列を忝うした事は、一家の感謝に堪へぬ次第であつた。

招魂祭

四月六日招魂碑前に於て招魂祭を舉行せられ、高橋神官の祭詞、光恩寺善應寺兩住職の讀經、市川安達郡聯合分會長、渡邊杉田分會長の祭文奉讀、各代表の玉串捧呈等があつた。全村の名譽職、在郷軍人、諸有志青訓生小學校兒童等多數の參列者があつた。

春季運動會

小學校兒童、男女青年會青年訓練生連合の春季運動會は、五月一日稻荷山公園に開催せられ、六十一番の演技が行はれ、全村から見物人が參集し、頗る盛會を極めた。

學校職員移動

年度末に鈴木正孝訓導は石城湯本に、齋藤忠訓導は田村下大越に轉任、渡邊三之助教員は退職し、後任として石城小名瀧より山本一

御禮

五月三日留守宅近火の際に早速御見舞をいただき御厚情の段まことにありがたう御座いました。幸に無事なるを得たるは偏に皆様のお蔭による事と存じ幾重にも御禮を申上げ

大内民恵

吉本郡岳下より本多徹吉の兩訓導を迎へ、尚山岡好恵大沼ミヨの兩氏は新に任用され、福師新卒業加藤林訓導は、短期現役兵として若松に入營した。其陣容は左の通りである。
佐久間清一 大澤堂賢永
山本一吉 武藤 俊雄
玉應 丈夫 加藤 利明
本多 徹吉 山本 ナカ
菅野 惠知 松本 トミ
大波 ミヨ 山岡 好恵
加藤 林 (短現)

高等科卒業生

六年度高等科卒業生は左の三十九名で、卒業生を代表して答辭を讀んだのは安田巳代吉君である。
安田 義三 渡邊 貞雄
佐竹 忠 村田 惣藏
國分 藤夫 安田巳代吉
鈴木 金七 佐々木倉吉
佐々木卓巳 鈴木 久男
鈴木 源治 鈴木 利完
渡邊 秀雄 高橋 三善
鈴木 彌夫 渡邊 慶明
安齋 芳藏 國分 逸作
鈴木 久三 伊藤 一二
渡邊 貞司 甲斐根敬治
市川 晴治 高橋 惣藏

「學窓」より

雪登あつめて積みしさをしにたぐひて祝ふ子等の門出を高くかに天にも叫べ地にも言へ荒き波路にけふ出ず

漢詩

興植大學入學者 安部井義玄
五歳望成臨進春 雪後梅陰更今新
圍爐集首談開拓 識俊英是努力人

教育制度改革概論

(四六版二二頁定價五十錢 郵税六錢)

矢野 恒太序 大内民惠著

武にも屈せず、富貴にも淫せず、貧賤にも移らざる事を一家の家憲として居る者である。かうした立場から

行き詰れる現代の教育制度を解體して、學理と實際と、歴史と實驗とから新に大内案九主義を提唱す。天下知名の士の賛同枚舉に違あらず。さ

我國教育學界の權威 京大教授小西重直博士 書を寄せて曰く、多年ノ御體験ト實地ノ御試練ニ基ク眞摯愛國ノ大精神ヲ拜味仕リ不思議感激ニ打タレ申候云々。

發行所 日本評論社 東京丸の内昭和ビル 取次所 内郷村報社

磐炭選手の活躍

千葉 幸夫 記

去る七八兩日山形市に行はれたオリンピック南奥羽豫選大會に出場した我磐炭炭礦陸上競技部選手一行九名が揃つて晴れの選手権を獲得し得たことは、我が磐城炭礦のみならず、この常磐地方の大きな誇りである。會川主將引率の下に九日朝意氣陽々歸山した。驛まで迎へた關係者の「御苦勞様」の感謝と喜びの言葉に包み切れぬ歡びをたへて、一先づ礦業所の休憩室に着いた。彼等の思ひ出は又もや山形にと自ら飛ぶ。苦闘力闘嬉しさ残念さ、思ひ思ひの感慨談は續く。長堀監督「今日は之で一先づ歸つて充分休息をするやうに」の言葉に一同解散。我會社に体育會組織成るやそれを背景に斯くも偉大な結果を示し得たことは、凡ゆる方面に非常な刺激を與へずには置かない。選手一同は自重と緊張そのものゝくである。今我選手の成績を見るに、一〇、〇〇〇米一着山田三四分四六秒△八〇〇米二着寒河江二分九秒△三段跳一等金成△二百米二着瀧口二二秒九△四〇〇米四

野球部でも福島市に開かれた福島民友社主催縣下實業野球大會に出場。去る十日四日最初の試合として相馬の中村チームを七對一で破り續いて福榮チームも三對一でサット葬る。翌十五日先づFAチームに向ふも吾か鈴木樫村の好投に封ぜられ四對零で又も大勝、愈々準決勝が郡山巨人軍と始められた、が茲に於て遂に三A對二で惜敗。選手諸君！今後益々練習然も捲土重來の意氣を以て次回こそ花々しき戦史を殘されんことを。

出版披露

川平郵便局長草野三千雄

氏が、年來研究の結果創始したる全身強健術を刊行すべく編輯中の處、印刷完く成りたる四月二十九日の天長節の日、内郷館に於て、其關係者郡内有力家知友禮讀者等多數臨席の下に、出版披露祝賀會が開催せられた。當日草野氏より鄭重なる挨拶があり、來賓を代表して記者の答辭等あり頗る盛會であつた。尙本書は五月五日を以て發行特價貳拾錢を以て發賣する事となつた。



出版披露祝賀會 氏野草が目人四りよ左列後

鮮人礦夫 渡満送別

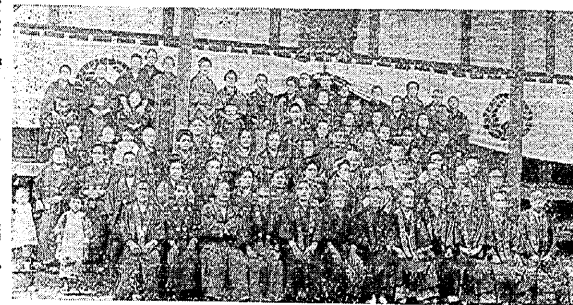
磐炭の鮮人礦夫五十一名は徳田氏引率の下に渡満する事になつたので、會社では之を壯として、特に濱崎勞務課長は上京、拓務省陸軍省朝鮮總督府出張所等を歴訪して、有力なる紹介状を得て歸山、五月八日集會所に於て鄭重なる送別會を開催、其席上濱崎課長は聲淚共に下る送辭を述べ退職手當は勿論、旅費小遣等會社今日の財政に於て許し得る最高額を支給する事、特に菅原所長よりは車中菓子料壹百圓を贈る事、途中の注意、將來の覺悟等愛兒の門出を送るが如き挨拶があつたので一同感激の涙を流し、翌九日家族を併せて百五十余名、全山を擧げての歡送裡に出發した。

豫防宣傳

磐炭健康保險組合では、結核豫防週間中四月二十八日より四日間にかけて、警炭隊應援の下に、平野桑折の兩氏主となつて、肺結核トラホームの豫防を活動映畫によつて宣傳し、又五月七日より三日間集會所に

遍照講

同講内郷支部發會式は、五月一日聖光院に於て舉行せられた。其順序は、本尊法樂、開會の辭(赤土師)根來山御詠歌、總裁親親奉讀、役員任命、支部長挨拶(松村師)役員代表挨拶(大内民惠)來賓祝辭(近藤師)誕生和讚(一般齊唱)等で、午後は渡邊榮



式會發部支講照遍

照師指導の下に、御詠歌並に和讚の講習あり、講員四十余名に達し、他町村よりも來會者あり、百名に近き盛會であつた。其役員は左の通りである。支部長松村智清、副支部長根本金三郎、世話係青木久吉、園部末藏中村安太郎、山崎瀨太郎、鈴木辰次郎、大越清吉、大内きみ、發助員大内民惠、顧問赤土興榮。

明治天皇御製 外國に屍さらししますらぬの魂も都にけふかへるらむ

金貳圓五拾錢 磐炭青年町田支部 金貳圓 高坂某 金五圓 平町某 氏

凱旋勇士談片

五月八日夕刻、先づ取敢へす我村出身で、滿洲より凱旋した七勇士...



凱旋勇士談片 凱旋勇士談片

地点に進軍するや、敵之を知つて猛射す。友軍は幸うじて水士一尺五寸を搦つて...

天人會生れる

所在不明となつた時に、曹長殿唯二人、汗馬に鞭うつて苦心...

山田轍郎記

健衛草野氏が鋼鐵の体軀を壇上に起て、赤裸々の實演に會衆を首肯させる...

俳句

夢笛吟社高野嶺泉吟行 みんなして沈丁園み付み 原ひてを...

△三等計手遠藤正直君。(同君は常に計手戦が始まれば機關銃隊に加はつて活動)...

△上等兵大竹義雄君。幾度かの戦に、苦しかつた事、樂しかつた事に、數限りなくあるが、方正方面の戦闘に、其行動を共にした友軍吉林軍の退却によつて、我桂大隊が...

内郷村報の 六大使命

一、政黨政派を超越して、村力充實主義を標榜す。

二、村内外公私各機關の活動状況を報導し、併せて其協調を計り、總和と進歩の實現を期す。

三、本村共済事業の徹底を期す。

四、村内の善事美行を表彰し、且之を獎勵す。

天人會生れる。延び延びした天人會が七日の夕に例の七年會の別館で各方面の顔ぶれて意義深く開かれる。

論 断して親爺運を承知させ、股に土産談をして貰ふ頃は豫定を過ぐる正に十一時であつたが、七年會長がオールボーイの優しい氣...

村報 大内民 大町村校長等の上申...

本紙發行は内郷一家の事業にして、其の社説は子孫に對する遺言を養ふるものなり。